

## 鉄砲洲神社素読論語 解説

(平成24年7月20日)

【二〇】子曰く、論の篤きに是れ与せば、君子者ならんか、色荘者ならんか。

孔子が言うには、議論の誠実さの状況で判断をすると、君子らしい人なのかなと思える。色荘者は、顔色、心の中までの表情が表れているという様な顔色です。うわべだけの人。議論を一生懸命に情熱をこめて言っている、それだけ聞いて判断をしていると、はたして君子らしい人なのか、うわべだけの人なのかどちらか分からない。

渋沢栄一流に言いますと、視・観・察という点から、孔子が人間を判断する時には、うわべだけではよく分からないから、よくよくその人のやっている事を見て言行一致しているかどうかをチェックするのが良い。話を聞いただけ、一辺見ただけで即断してはいけない。少しは長く付き合わない、本物かどうか見えてこないと云う話です。御自分の周りを見て頂ければ、似たような事例はたくさんあると思います。

【二一】子路 問う、聞くまに斯に諸を行わんかと。子曰く、父兄 在すこと有り。之を如何ぞ、其れ聞くまに斯に之を行わんと。冉有 問う、聞くまに斯に諸を行わんかと。子曰く、聞くまに斯に之を行えと。公西華曰く、由や 聞くまに斯に諸を行わんかと問いに、子は父兄 在すこと有りといえり。求や聞くまに斯に之を行わんかと問いに、子は聞くまに斯に之を行えといえり。赤や 感いぬ。敢て問うと。子曰く、求や退く。故に之を進む。由や人を兼ね。故に之を退くと。

子路が孔子に質問しました。「聞いたらそれをすぐに実行して良いでしょうか。」孔子が答えたのは、「親兄弟が生きておられるだろう、お前はどのようにしてそういう事を言うのだろうか。お前はそのまま実行するつもりか、親兄弟から賛成して貰ってからやるべきだよ。」冉有が同じ質問を孔子にしました。「聞いたらそれをそのまま実行して良いでしょうか。」「お前は何を言うのだ、すぐ実行するのが良い。」それを側で聞いている弟子の公西華が同じ質問で弟子によって返事が違うことに戸惑って、由（子路）が聞いたら先生は「親兄弟がおられるのだ」と答えておられるし、求（冉有）が聞いた時には、「すぐ行え」と言われた。

赤は公生西華の事です。私は分からなくなりました。分からなくなったので、あえてもう一度お尋ねします。「どういう事なのでしょう」と聞いたら、孔子は、「冉有は消極的だから、聞いたらすぐおやりなさいと云う風に励ましすめた。子路に対しては他人の事までちよ

っかいを出す人間だから、少しは控える事を覚えなさい」と云う風に答えた。

お弟子さん達の性格を見ながら答えているのだから、同じ答えはしない。という事は公西華も弟子がいるのだから、「お前も弟子達に杓子定規に、通り一辺の答えをするのではなくて、相手の性格をよく見て、こう言えばどのように反応するか判断をして教え導くがよかろう」と答えた。

孔子が亡くなって暫くして、お弟子さん達が論語を編む段階の時には、状況が分からなくなっていますから、なぜ同じ質問に答えが違うのだろうという問いに対する説明がある。千年、二千年経つと分からなくなってくるので、当然、最初に言った科白とは意味が違ってくると思うので、そのつもりで読むと良いと思います。

今風に言いますと、小沢さんや野田さんの科白を、論語に比較して聞いてみると実に面白い。前に言った科白を前言撤回すると言いもしないで、ころころ変えます。マニフェストが良い例で、必ず守らないといけないと云う人もいるし、マニフェストは駄目なのだから全部撤回すると言えばいいじゃないかと、その時その時の目先の政治状況、政治判断によって同じものを、ころころと態度を変えて言うのを論語で比較してみますと、論語は聞いている人の態度、状況を見ながら個性に適した指導を言いますが、最近の政治談議で出しているのは自分の立場が良くなるよう良くなるように説明をころころ変えています。同じ説明を変えるのでも、だいぶ違うなと思います。